独立行政法人
労働者健康安全機構　大阪ろうさい病院

Osaka Rosai Chronicle

大阪ろうさいクロニクル

創刊号
発行日
2022.8.1

ごあいさつ

院　長　　田　内　　潤

平素より、大阪ろうさい病院の運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当院は令和４年１月１日から新病院に移転いたしました。昭和37年に開設して以降、60年にわたる歴史を歩んできましたが、これからは新病院での新たな歴史を刻むことになります。これもひとえにみなさまのご理解とご支援によるものであり、心より御礼申し上げます。

当院は独立行政法人労働者健康安全機構が展開する全国労災病院の一員として、働く人びとの健康を支援する勤労者医療を使命の一つとしつつ、地域の急性期医療を中心的に担って発展してきました。厚生労働省の「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」、「地域医療支援病院」や、「日本医療機能評価機構認定病院」をはじめとした多くの認定病院、指定病院として、「誠実で質の高い医療を行う」という基本理念の下に、「急性期医療の充実」、「高度専門医療の実践」、「地域医療連携ネットワークの構築」、「勤労者医療の展開」、「安全な医療の推進」、「働きがいのある職場づくり」などの基本方針を掲げて、病院が一体となってよりよき医療への努力を重ねてきました。

新病院では、特に（１）高度専門医療の拡充、（２）救急医療を含む急性期医療の充実が図られ、手術室は13室から16室に増室し、ハイブリット手術室、ナビゲーション手術室及び内視鏡支援ロボット手術など高度で安全かつ患者さまに負担の少ない手術が行えるよう配慮されています。また、集中治療室はICU12床、HCU/CCU/SCU16床と倍増し、重篤な患者さまにも高度な専門的医療を提供できる体制となっています。

さらに救急部門では診療に必須となる放射線部門、内視鏡部門と隣接し、救急用エレベーターで３階の集中治療室、心臓カテーテル室や手術室へ迅速に搬送できる設計となっています。心臓カテーテル室は２室から３室に増え、より緊急カテーテルに対応しやすい体制となり、内視鏡検査・治療室は５室から７室に増えるとともに回復室を９床設けることで麻酔下での処置が充実しました。また、化学療法室はより落ち着いた医療環境を目指して一般外来から独立させ、ベッドも21床から31床に増床いたしました。

一方、勤労者医療の一環である「治療と仕事の両立支援」にもいち早く取り組んでいます。多くの病気で予後が改善されるなか、治療が長期にわたるため就労に支障をきたしたり、逆に仕事を続けるために治療を中断せざるを得なかったりすることが社会問題となっていますが、新病院ではこの課題に対する「治療と仕事の両立支援」への取り組みも一層充実する体制となっています。

医療に求められる課題は日々変遷しますが、今後とも、みなさまのご期待に応えられるような体制作りに努めてまいります。先に触れた（１）高度専門医療の充実、（２）救急医療を含む急性期医療の充実に加えて、（３）地域医療連携の推進、（４）医療の人材育成や地域のみなさま方に対する啓もう活動の拡充などを通じてこれからも南大阪地区の地域医療の発展を支えていきたいと思っていますので、今後とも変わらぬご理解、ご支援をお願い申し上げます。

最後に、新病院移転を契機としてこれまでの広報誌を一新し、“大阪ろうさいクロニクル”として新たな広報誌を発刊いたしました。当院の診療機能の紹介はもとより、タイムリーな話題を定期的にお知らせできる魅力的な広報誌を目指しておりますので、ぜひご一読のほどよろしくお願い申し上げます。

「大阪ろうさいクロニクル発刊のお知らせ」

副院長／広報委員会委員長　西　野　雅　巳

仲夏の候、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、ご存じの通り、当院は令和４年１月から約60年ぶりに新病院となり、新しい門出となりました。これを機に、より大阪ろうさい病院を皆様に知ってもらおうと旧病院時代、長らく親しんでいただいた大阪ろうさい病院広報誌「そあみっく」と「メディカルサポートセンター通信」を統一し、年４回発行の季刊誌として「大阪ろうさいクロニクル」の発刊に至りました。「クロニクル」とは皆様、あまり馴染みのない言葉かもしれませんが、ギリシャ語の時間を表す言葉である「chrono」と論理的という意味の「logical」が合わさりできた英語です。「クロニクル：英語ではchronicle」は、当初、歴史を時系列に沿って論理的につじつまが合うように書かれた歴史書の意味で用いられており、年代記や編年史として訳されています。そこから派生し、しばしば新聞紙名につけてナニナニクロニクルというような使い方をされるケースも増えてきました。小生がこのクロニクルという言葉と出会ったのは今から約四半世紀前にサンフランシスコに留学していたときで、サンフランシスコの現地の日刊新聞の名前がサンフランシスコ・クロニクルでした。この新聞から種々の情報を得て、まだよく聞き取れない英語圏の中でずいぶん助けられました。日曜版とかには１週間分のテレビ番組が載っており特に半年遅れで土曜日の夜には日本のドラマが１時間枠で放送さていてときどき時間がずれたり、なくなったりするのでそれを確認するのが日課でした。まあ、これは今思えばたいしたことのない情報ですが、当時、英語圏で日本語に飢えていたのでこの情報も非常に重宝しました。したがって、この「大阪ろうさいクロニクル」という名前は、新しく生まれ変わった大阪ろうさい病院の種々の情報を皆様に知っていただき、大阪ろうさい病院が提供できるよりよい医療を理解していただく有用な情報源の一助になればという思いで名づけました。この「大阪ろうさいクロニクル」が新・大阪ろうさい病院の今後刻んでいく歴史の輝かしい年代記となることを願っています。その記念すべき初刊は、当院が新病院となり力を入れているひとつである「がんセンター」を中心に皆様に紹介をさせていただき、情報提供させていただきたいと思います。

今後、この「大阪ろうさいクロニクル」をご愛読いただきますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。

基本理念

誠実で質の高い医療を行い、
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1．地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2．高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3．患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4．勤労者医療を担ってこれを推進します
5．働きがいのある職場づくりを推進します

「新生ろうさい病院における“新たながんセンター”」

副院長／がんセンター長　平　松　直　樹

大阪ろうさい病院は、2002年に国指定の“地域がん診療連携拠点病院”に認定され、以来20年間にわたり、堺市２次医療圏の中核として最先端のがん診療を行ってまいりました。2020年からは、地域で最も高度ながん診療を行う病院に指定される、大学病院を含めて大阪府で８施設しかない“高度型がん診療連携拠点病院”として活動しています。

2019年、当院において“腫瘍内科”が新設され、より充実した横断的ながん診療ができる化学療法センターとなりました。毎日の外来診療とともに、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤をはじめとした最新の化学療法を行っています。また、同年、厚労省から大阪大学の“がんゲノム医療連携病院”に認定され、遺伝子パネル検査による遺伝子診断ならび遺伝子治療に取り組んでおります。

こうした最先端のがん診療の一方で、同じ2019年、当院において“緩和ケア科”が新設され、“がんと診断されたときから始まる緩和ケア”を実践しています。毎日の緩和ケア外来、そして入院患者さまを対象とした緩和ケアチームによる毎日の病棟ラウンドを行っています。さらに、“がん相談支援センター”では、病気に関することだけではく、がん患者さまの就労支援も積極的に行っています。大阪労働局・ハローワーク堺と連携して新たな就職活動についてもサポートしています。

2022年、ろうさい病院は新病院として生まれ変わりました（図１）。新病院では、手術室や化学療法センター、内視鏡センター、そして放射線治療センターが大きく拡張され、最上階にはがん患者さま専用のフロアができました。２階中央には、充実したがんセンター、緩和ケアセンター、そしてがん相談支援センターが設置されました。今回の大阪ろうさいクロニクル創刊号では、当院が誇る“新たながんセンター”の各部門の活動を紹介いたします。

新生ろうさい病院における“新たながんセンター”において、スタッフ一同、これからも市民の皆さまとともに“がん”に向き合い、そして、“がんとともに生きる”患者さまの心と身体のケアに全力を尽くしていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

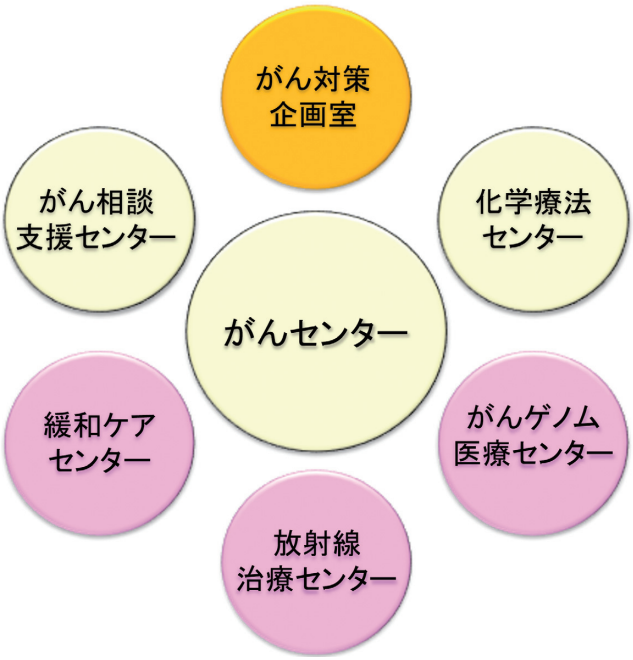


図１．新生ろうさい病院における新たながんセンター

「新病院における手術室紹介」

副院長／泌尿器科部長　　辻　畑　正　雄

がんに対する治療は、主に薬物治療、放射線治療、そして手術治療の３本柱で行われております。手術には、腹部や胸部、頭部などを開けて行う開放手術、１cm程度の皮膚切開からポートを数本挿入して行う体腔鏡下手術、尿道や鼻、肛門や口からカメラを挿入して行う内視鏡手術、また血管からカテーテルをいれてのポート留置術や泌尿器科の腎瘻造設術、そして最新治療の一つであるダヴィンチによるロボット支援下手術があります。当院において2020年度のがんに対する手術件数は、1,915件でした。当院の手術件数は、大阪府下においてもトップクラスです。手術の内訳は、開放手術が546例(28.5%)、体腔鏡下手術が268例(14.0%)、内視鏡手術が766例(40.0%)、ポート留置術や泌尿器科の腎瘻造設術が157例(8.2%)、そしてダヴィンチによるロボット支援下手術が178例(9.3%)でした。近年、体腔鏡下手術や内視鏡手術、そしてロボット支援下手術は低侵襲手術と言われており、その割合が増えております。

新病院になって、手術室は３室増え、16室になりました。大学病院にもひけをとらない、関西でも有数の手術室になっています。また、ダヴィンチ専用の部屋もでき、一室一室が広くなって、手術が行いやすくなりました。ロボット手術は、2022年４月の診療報酬改定で、11術式が新たに追加され、合計32術式が保険適用されております。現在、当院では泌尿器科と消化器外科が中心となって行っています。ロボット手術は、出血が少なく、合併症の少ない、制がん性においても開放手術や体腔鏡下手術と比べて遜色のないデータが報告されており、今後はがんに対する手術として標準治療になっていくものと考えます。

手術室では、医師、看護師、看護助手、薬剤師、臨床工学技士など多くのスタッフにより手術が行われております。それぞれが、連携を取って、チームワークよく行うことが大切です。これからも大阪ろうさい病院は、患者さまのご希望やご期待に応えるよう安全を心掛けて、手術を行ってまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ダヴィンチ手術の光景

「化学療法センター」

化学療法センター・センター長/外科・消化器外科部長
赤　丸　祐　介

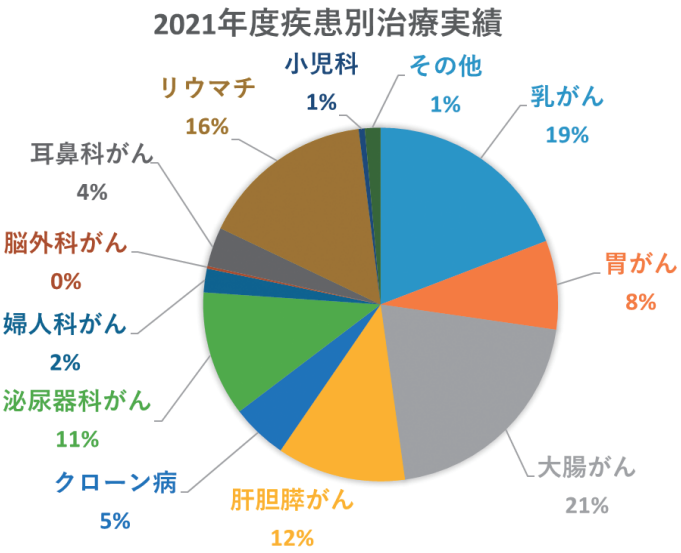
化学療法(がん薬物療法)とは、抗がん剤を使用して、手術では切除できないがん細胞に対して増殖を抑えて腫瘍を縮小させたり、がん細胞を切除後に再発や転移を予防する治療方法のことです。

最近のがん治療においては、治療効果はもちろんですが、同時に患者さまのQOL(生活の質)を非常に重視しています。現在でも副作用のきつい強力な化学療法は入院で施行しますが、外来通院で、仕事や家事などの普段通りの生活をして、QOLを維持しながら化学療法を継続する方法が主流となってきています。当院でこの外来での化学療法を受けて頂く場所が、化学療法センターです。

近年従来の殺細胞性抗がん剤に加え、分子標的薬、ホルモン療法、免疫チェックポイント阻害薬など新しい薬剤の開発が目覚ましく、がんの治療成績は飛躍的に向上してきています。また副作用を抑える薬剤も次々と開発されており、患者さまの副作用はかなり軽減されてきています。

一方で、治療内容は複雑化し、専門性が一段と要求される状況になってきています。当院の化学療法センターでは、毎日５－７人の看護師が勤務し、実際の治療に当たっています。さらに、がん薬物療法専門医１名、がん専門薬剤師３名、外来がん治療認定薬剤師３名、がん化学療法看護認定看護師１名、がん薬物療法看護認定看護師１名などが在籍しています。多職種の専門家が協力して、患者さまひとりひとりに最適で最新の治療を、安全に受けて頂ける体制を整えています。

当院の化学療法センターでは、がん薬物療法以外に、慢性リウマチやクローン病に対する化学療法も施行しています。これらを合わせると、１年間でのべ8,000人を超える患者さまが治療を受けておられます。旧病院の21床から新病院では10床増床し、ベッドとリクライニングチェアーで合計31床を準備しています。プライバシーが確保される空間で、リラックスして治療を受けて頂けるように配慮しています。今後も患者さまの治療を全力で支えていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
治療患者総数	8,096	8,452	8,151	8,351	8,127
新規患者数	357	382	430	371	355

「新病院の内視鏡センター」

内視鏡センター・副センター長/消化管内科部長　山　田　拓　哉

・内視鏡センターの特徴

内視鏡センターは病院１階に位置しており、７室の内視鏡検査室を備えています（写真１）。そのうち１室は内視鏡治療専用の検査室です。また別にX線透視倒置付きの内視鏡検査室も併設しております。

年間１万件を超える内視鏡検査を行っており、上部・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、胆膵内視鏡検査、小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査など診断を目的とする内視鏡検査を行っております。また、食道・胃・大腸の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）（写真２）を年間約200例、胆道・膵臓疾患に対する内視鏡治療を約700件行っています。

・最新の内視鏡設備

検査には最新の高画質（ハイビジョン）内視鏡や拡大内視鏡、特殊光（NBI）検査などの機器を備えており、精度の高い検査を行っております。また、AI（人工知能）を用いた大腸内視鏡検査を行うことが可能です。

・専門スタッフが対応

日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会の指導施設に認定されており、学会専門医、内視鏡技師認定を受けた看護師、内視鏡技師が常勤しています。

・安心しリラックスできる検査環境

検査室は十分な広さが確保された個室（写真３）であり、検査台ごとに検査医、看護師が配置され、リラックスできる環境で検査を受けていただけるよう配慮しています。苦痛の少ない検査を受けていただくために、鎮痛・鎮静剤を用いた検査も行っており、センター内には広いリカバリー（回復）スペースを備えております（写真４）。また、安全な検査を受けていただけるように、感染対策にも力を入れています。内視鏡はガイドラインに準拠した用手洗浄を行った上、毎回の検査ごとに専用洗浄機を使用して高レベル洗浄を行っております。

（写真１）

（写真２）

（写真３）

（写真４）

「放射線治療センター（リニアック）について」

放射線治療センター/放射線治療科部長　古　妻　理　之

放射線治療は外科治療、薬物療法とともに、がん治療に欠かせない治療法のひとつです。根治を目指す治療だけでなく、痛みなどの症状を和らげる治療、再発の危険性を減らす治療など、様々な目的に応じて柔軟に対応することが可能です。

当院では、病院移転に伴い新しい治療装置（リニアック）を導入いたしました。Varian社のTruebeam という装置で、2022年３月より運用を開始しております。

このリニアックを使用し、様々な高精度放射線治療を行っております。

IMRT（強度変調放射線治療）は、腫瘍の形に合わせて照射する技術です。放射線に弱い臓器の被曝を少なく抑えながら、腫瘍に十分な線量を照射する事が可能です。この度、VMATという技術を用いて、より早く、より正確にIMRTを行える様になりました。

小さな腫瘍に集中して照射する定位放射線治療についても、新しい技術を導入しました。肺腫瘍の体幹部定位放射線治療では、腫瘍の動きをモニタリングしながら照射する呼吸同期照射が可能になりました。また、脳腫瘍などに頭蓋内定位照射を行うHyperarc（ハイパーアーク）という照射法も開始予定です。

以上の通り、様々な高精度放射線治療を行っておりますが、これを支えているのが、放射線治療の専門知識を備えたスタッフ達です。当センターには、放射線治療医、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、がん放射線療法看護認定看護師が在籍しています。全員が協力し合い、チームとして診療に当たり、地域の患者様の治療に役立てるよう、努力して参ります。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

「緩和ケアセンターのご案内」

緩和ケアセンター・センター長/緩和ケア科部長　任　　幹　夫

2018年10月に緩和ケアセンターが設立されました。

緩和ケアとは、“重い病気を抱える患者さまやそのご家族の身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな生活を送ることができるように支えていくケア”のことです。大阪ろうさい病院は、高度型がん診療連携拠点病院として、がんと診断された時からがん治療と共に必要に応じて緩和ケアを提供しています。

緩和ケアセンターの役割として、１.緩和ケアチーム、２.緩和ケア外来、３.がん看護カウンセリング外来、４.緩和ケア病床、５.緩和ケア教育の主に５つの役割を担っています。緩和ケアチームは多職種で構成され、入院・外来患者さまの様々なつらさを和らげるようサポートする専門チームです。緩和ケア外来は毎日行っており、院内だけでなく院外からの患者さまの受け入れも行っています。がん看護カウンセリング外来では、がんの告知、再発の説明等の際、患者さまは精神的に落ち込んだり、頭が真っ白になって説明されたことを覚えていないことが多く、認定看護師が同席し、心理的なサポート、病状理解のための補足説明等を行っています。緩和ケア病床では、専門の病棟ではなく、一般の患者さまと同じ環境となります。専門病棟のような入院環境は提供できませんが、当院でがん治療を行うだけでなく、治療後もつらさを和らげることに主眼を置いた緩和ケアを受けていただけます。ただし、緩和ケア病床では、手術や化学療法といったがん治療、心肺停止時の蘇生処置は行いません。緩和ケア教育では、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(院外、医師以外の医療者も参加可能)を2009年より毎年開催し、緩和ケアセンター主催でWEB研修会も年に数回開催しています。

患者さまのみならず、地域のクリニック、介護施設等の皆様から選ばれる病院を目指し、さまざまなニーズに柔軟に対応できるように努めています。緩和ケアセンターでは、“患者さまとご家族の希望に常に耳を傾け、理解すること”を大切にしています。患者さまとご家族の苦痛が和らぐように総合病院の専門性を活かし、様々な部門と連携しています。

緩和ケアセンターでは、緩和ケアを必要とする患者さまやご家族に対して、“いつでも”、“どこでも”必要な緩和ケアが提供されるよう院内の緩和ケア提供体制を整えるとともに、訪問診療実施施設を含め地域の病院、クリニック、介護施設等と連携しています。

独立行政法人
労働者健康安全機構　大阪ろうさい病院
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院(高度型)
地域医療支援病院

〒591-8025
大阪府堺市北区長曽根町１１７９－３
TEL　072－252－3561(代表)
　　072－255－8076(メディカルサポートセンター)
FAX 072－255－8203(メディカルサポートセンター)
http://www.osakah.johas.go.jp/